

「特定非営利活動法人かさおか島づくり海社」

岡山県笠岡市 笠岡諸島地区

代表者 鳴本 浩二 理事長

離島地域という条件の中、笠岡諸島6島の連携と笠岡市の特命組織「島おこし海援隊」との「官民協働」により地域の活性化から住民福祉まで幅広く活動を実施。法人の各種事業により地域の雇用が創出されている。

【むらづくりの経緯】

笠岡諸島は、岡山県西部の笠岡沖に30有余の島を飛石状に連ねて香川県に接している。笠岡諸島地区は、このうちの有人6島（高島、白石島、北木島、飛島、真鍋島、六島）からなる。気候は温暖・小雨で典型的な瀬戸内海気候である。

当地域は、豊富な魚介類に恵まれ、漁船漁業が盛んであったが、養殖漁業が立ち遅れたこともあり、環境の変化に伴い漁獲高が減少している。また、主産業である石材産業も外材に押され、地域経済も衰退の一途をたどり、少子・高齢化が進むなか、地域の存続も危ぶまれる状況にあった。

このような中、平成9年に笠岡諸島有志による「島の討論会」が開催された。会では島民同士顔見知りになるための「島の大運動会」の開催案が出され、現 NPO 法人かさおか島づくり海社理事長の鳴本氏を会長とする「島をゲンキにする会」が設立された。

6島合同の島の大運動会は第1回の北木島での開催から平成22年で第13回を迎える。島づくりの活動は島の大運動会とともに進んできた。運動会から、女性の活動グループ「笠岡諸島生き生き会」や笠岡市の「島おこし海援隊」が生まれた。

NPO 法人かさおか島づくり海社は、平成14年設立の「電脳笠岡ふるさと島づくり海社」を経て平成18年に設立された。かさおか島づくり海社は、住民の困り事や要望を受け事業化している。

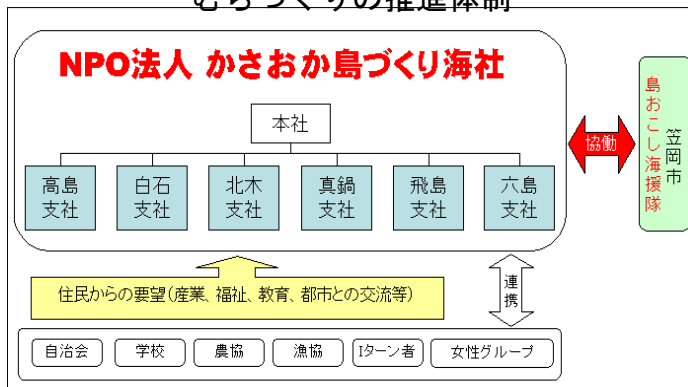
地域の公共的役割を担い、福祉、教育、特産品開発、都市住民との交流等幅広い事業が行われている。

かさおか島づくり海社は、北木島に本社を、各島に支所を置き、各島の連携と競争による諸活動が行われるとともに、笠岡市長特命の島民のためには何でもやる「島おこし海援隊」との協働で事業が展開されている。

地区の概要

規模: 6島10集落	区分: 離島地域
総世帯数	1,337 戸
総人口	2,589 人
漁業世帯数	140 戸
専門	116 戸
兼業(漁業が主)	16 戸
兼業(漁業が従)	8 戸
漁業概要 海面漁業 (動力船小型定置網) 577百万円 養殖のり 22百万円 個人経営体1戸当り所得 435万円	

むらづくりの推進体制



【むらづくり活動の特徴】

～ 農・水産業の振興による島づくり ～

平成20年、東京都三宅島の「灰干しプロジェクト」に参画し、地域の未利用魚と三宅島の火山灰を利用した「灰干し」を開発した。平成21年7月には、「(株)島のこし」を設立し、同年11月から、製造・販売が開始された。これにより、新たな地域の特産品ができるとともに地域の雇用が創出された。

また、真鍋島ではゴーヤの生産と加工・販売、白石島では桑茶の加工、飛島では椿油の生産など、女性が中心となり、各島が競い合った特産品づくりに取り組んでいる。



魚の灰干し

～ 住民の住みよい島づくり ～

高齢者の島で最期まで住み続けたいという思いに応えるため、平成19年、北木島で空き屋を活用したデイサービス施設を開設した。現在では北木島、白石島に3ヶ所デイサービス施設を開設し、今後、真鍋島にも開設予定である。また、北木島においては、高齢者の足を確保するため過疎地有償運送事業も実施している。



デイサービス ほほえみ

NHKの島おこし企画から、各島の特産物を活かした「島弁」が生まれた。「島弁」は島めぐりツアー等の都市住民へのおもてなしツールとして活用されるだけでなく、4島において高齢者の給食サービスとしても貢献している。

六島では、Iターンによる就学前児童が4名できたことから、笠岡市の委託を受け平成18年に保育施設「あゆみ園」を開設した。翌年には1名の児童が新1年生となり六島小学校が5年ぶりに再開した。

～ 移住者の受入と雇用の場の創出 ～

平成15年から空き屋対策として、Iターンの受入れを積極的に行っている。「団塊留学」や「移住体験ツアー」の実施、インターネットやテレビの紹介もあり、平成22年4月現在、笠岡諸島4島に団塊の世代や子育て世代、32世帯70名の移住を実現した。真鍋島では、将来的な小学校の存続が危ぶまれる中、子供を持つ家族誘致に、移住者がプロジェクトリーダーとなり、移住体験ツアーを実施している。

島づくり海社の行うデイサービス事業、保育事業等各種事業は、Iターン者の雇用の場の確保にもつながっている。



移住者の皆さん



島の大運動会



「島弁」



保育施設 あゆみ園